

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 飛騨牛戦略推進強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進室 銘柄推進係 電話番号：058-272-1111(内2878)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,207 千円 (前年度予算額：29,141 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	29,141	1,174	0	0	0	0	0	0	27,967
要求額	21,207	0	0	0	0	0	0	0	21,207
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

飛騨牛は、「全国和牛能力共進会」（和牛の改良技術を競う全国大会で5年に一度開催）において、過去2度、最優秀枝肉賞を獲得したが、平成29年9月の宮城大会では選外となった。そこで、次回（令和4年）の鹿児島大会に向け、知事を名誉会長とした「全国和牛能力共進会岐阜県戦略推進会議」を設立し、宮城大会の検証と強豪県の取組を調査し策定した「和牛日本一奪還戦略」に基づき、飛騨牛関係者一丸となって推進していくこととした。

戦略では産肉能力*に優れた出品用の子牛を効率的かつ効果的に増産するため、①産肉能力トップクラスの母牛の選抜のための母牛の能力調査と、②子取りの手法、③出品候補牛の選抜・出品技能強化について、科学的見地から取り組み、強豪県に対抗できる出品牛づくりを進めることとしている。

*産子の枝肉成績で推定

(2) 事業内容

戦略の①及び②については、令和元年度までに完了。

③について、出品牛の育種価調査と精度の高いエコー診断、血液検査等を行い最も良い牛を選抜する。具体的には、県内繁殖雌牛等のゲノム情報の収集、母牛のオレイン酸能力の推定を継続実施することで、出品候補牛の能力評価の精度向上を行う。また、選抜チームのエコー診断技術の向上と、出品牛の簡易ビタミンA検査を実施し、飼養管理のモニタリングを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10（飛騨牛の改良は、県畜産研究所が主体となるため）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬等	524	実験補助（ゲノム採材、脂肪酸測定等）
旅費	596	出品対策チーム旅費等
需用費	10,432	ゲノム育種価解析用消耗品ほか
役員費	387	通信運搬費
委託料	9,180	遺伝子型（SNP）解析ほか
使用料	88	ETC使用料（DNA採材時等）
合計	21,207	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

全国和牛能力共進会鹿児島大会（R4）に向けた和牛日本一（最優秀枝肉賞）奪還戦略

(2) 国・他県の状況

本県のように母牛の頭数が少ない鳥取県において、母牛全頭（約3000頭）のゲノム育種価調査や、受精卵移植技術を用いた出品牛づくり、エコー診断技術を用いた出品牛の選抜を実施。

(3) 後年度の財政負担

母牛の能力調査については、次々回以降の大会も見据えて継続実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体は県（畜産研究所、家畜保健衛生所）であるが、効率的、効果的かつ確実に期間内に実施するため、一部を専門性の高い団体等に委託する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

- ① 次回（R4）の全国和牛能力共進会に向け、令和4年度は、出品候補牛選抜のためのゲノム解析精度向上に取り組む。
- ② 出品牛の最終選考に向け、各種診断技術の向上を実施する。
- ③ 候補牛のモニタリング調査および管理指導を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、次回大会に向けた優秀な牛を出品する工程の一部につき、成果指標にはなじまない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全共出品対策委員会の開催 ・全共出品対策委員会各部会（種牛、肉牛、調整）の開催 ・候補牛のゲノム育種価調査の実施 ・飼養管理技術向上のための牛枝肉のオレイン酸測定の実施 ・エコー診断技術の向上、候補者の飼養管理技術向上の取組実施
令和3年度	<p style="color: red; text-align: center;">令和5年度当初予算にて追加</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p style="color: red; text-align: center;">令和6年度当初予算にて追加</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>国内外を問わず、飛騨牛のブランド価値を高めていく上で、その品質を裏付ける実績が不可欠である。</p> <p>本県は、和牛のオリンピックといわれる5年に一度の全国和牛能力共進会で、平成14年の岐阜大会以降、枝肉賞を獲得してきたが、29年の宮城大会では獲得を逃したことから、次の大会では再び獲得できるよう、より優秀な牛を高い確率で作出するために遺伝子や細胞レベルの科学技術も取り入れた対策が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>「和牛日本一奪還戦略」の計画に従い、順調に進行している。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>県下各地域の肉用牛改良に携わる技術員や農家代表を会員とする出品対策委員会を通じて、生産者団体や県市町村、JAなど県域全体で取り組んでいる。また、生産部門、選抜部門に専門家が集まったチームを結成し、全国和牛能力共進会に取り組む体制を構築している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 令和4年は全国和牛能力共進会の開催年となる。最終選抜に際し、飼養管理の指導、選抜技術の向上が求められる。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「飛騨牛」を肉のトップブランドとして維持していくためにも、全国和牛能力共進会に挑み続け、更なる改良を進めていくことが必要であり、まずは次回を見据えた戦略を推進していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	